地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊員

奥村 純一

こんにちは。この4月より、皆野町で地域おこし協力隊として活動を始めました奥村です。

僕のテーマは自動車趣味を生かして、皆野町の活性化を図ること。それにはまず、自分と同様に2拠点生活から、皆野町の環境や、住み良さを知ってもらい、将来的には、地域おこし協力隊の任務でもある、移住定住の促進ができたらという目標を掲げております。

拠点として、皆野町を選んでもらうには、それより前に、まずは皆野町を知ってもらうということが必要です。

皆野町は、都心部から約90分とアクセスもよく、風光明媚な観光スポットもたくさんあります。また、都内在住の友人も度々訪れるという人気ドッグランもあります。さっそく、僕も都内からドッグランまでドライブするイメージ動画を制作し、動画サイトに掲載したところ、何人かの愛犬家たちが訪れてくれたそうです。こうした投稿サイトなどを積極的に利用して、皆野の観光をアピールするのも僕の仕事です。

4月以降、僕が「皆野、皆野」と言うようになってからは、同じ趣味の仲間たちも意識してくれるようになり、秩父方面のドライブには、皆野の〝道の駅〟に立ち寄り、皆野町の温泉や宿泊施設を利用してくれるようになったのは嬉しいです。そして、自宅兼工場となる物件があれば移転したいと、県内の自動車関連の事業者が、移住相談センターを訪問してくれました。

僕はこれまでずっと(現在も)写真撮影の仕事をしており、出版社さんとの付き合いがあります。そうした関係を有効活用し、宝島社の月刊誌「田舎暮らしの本」6月3日発売号では、〝草刈り機の使い方〟という特集記事を三沢地区にある売り物件を使い、モデルは同期の松藤隊員、僕が撮影を担当しました。4ページの記事内には、皆野町の移住支援情報も掲載していただいております。

また、自動車雑誌「Tipo」6月6日発売号では、〝マイクロツーリズム(近所旅行)で楽しむオートキャンプ〟という記事で、リトリートフィールドMahora稲穂山のキャンプエリアを先行取材。オープンの告知ほか、道の駅みなのにある直売所や、ヤオコー皆野店にも触れた4ページの記事を展開してくれました。そして、同じく自動車雑誌「Old Timer」6月26日発売号〝瞠目の趣味人〟で、僕の趣味生活をクローズアップ、〝クルマと人が繋ぐ縁〟ということで、僕の皆野での活動を紹介する記事となりました。彼ら仕事仲間たちの、バックアップにも感謝しております。

皆野を目的地としたヒストリックカーミーティングイベントの開催を、旧いクルマでのドライブでも最適な季節である秋口あたりに開催できたらいいなと、ヘリテイジ美の山、山本支配人に相談したところ「ぜひ、うちの駐車場を使ってください」と、好意的なお返事をいただきました。

6月13日の日曜日に集まってもらおうと、仲間たちに声がけをしたのが、梅雨前5月末の頃でした。

すると、ありがたいことに、同じ趣味を持つ仲間たちの連携力のおかげで、30台くらい集まればといった予想をはるかに超えた82台が参加。プレミーティングを行いました。

イベントとしては、同じ趣味の仲間が集り、クルマ談義に花を咲かせるといった集まりですが、プロカメラマンによる愛車撮影や、仕事でお付き合いのある、企業さんからもたくさんの協賛品をいただき、じゃんけん大会は大盛り上がり。

味噌豚、しゃくし菜、みそポテトを使用したヘリテイジ美の山特製のお弁当は、ほとんどの参加者が美味しいと高評価、秩父地域の郷土料理を知ってもらうこともできました。

また、前出の「Tipo」、「Old Timer」の2誌の編集者も取材に訪れ、それぞれの誌面にて、記事展開してくれるということで、7月6日発売号のTipoでは、秋の本格開催の告知をしてくれております。こうした仕事仲間の協力にも感謝です。

今回は実証実験ということもあり、参加していただいた皆さんには、アンケートを実施。その結果を反映し、県外からの来訪者の楽しみとするだけではなく、町民も気軽に見学し、参加者たちと地域の人たちの交流ができるような内容や、地元業者によるケータリングサービスや、名産品販売など、皆野町の事業者の利益に結びつくことも考えた地域との関わりを持ったイベントとして、秋の本格開催を目指します。

また同時に、2拠点生活の場として、空き家バンクの充実を図りたいので、使っていない住居や倉庫をお貸しいただけるといった情報を、〝皆野町地域おこし協力隊員 奥村〟(mopar@tkg.att.ne.jp)までお寄せいただけましたら幸いです。

新緑の美の山を走るドライブ動画です。

愛犬とドッグランまでのドライブ動画です。